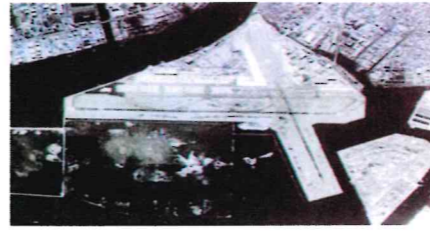


第25回 地域を語る会 「羽田空港沖合展開の歴史」

令和4年11月19日(土) 羽田地域力推進センター4階会議室で第25回地域を語る会が開かれました。当日は『羽田空港沖合展開の歴史』と題し、A滑走路の整備からD滑走路の整備の2部構成でお話をいただきました。

第1部は羽田空港の歴史と沖合展開までを紹介されました。昭和6年に国営の民間航空専用の「東京飛行場」として開港。昭和20年の連合国軍の接収による3千人余が48時間という短時間で強制退去を余儀なくされたこと。昭和27年7月に米軍から日本に返還「東京国際空港」と改名されます。その後



完成前の沖合展開

飛行機のプロペラからジェット機への変化と機体の大型化が進みます。搭乗者の増加に合わせて滑走路の新設・延伸が行われました。一方空港需要の増加



完成した沖合展開

と騒音問題の解決に向けて「沖合展開事業」が開始されます。その事業では、最初の埋め立ては地盤改良の土木技術

を駆使したもので、現場作業の困難な状況がユーモアを交えてのお話となり受講された方々にはしっかりと伝わりました。造成された地盤に2つのターミナルビル、A・B・Cと3本の滑走路と空港関連施設並びに鉄道、モノレールが延伸整備されます。更なる航空需要の増加を受けて新滑走路の建設が行われることが決定されます。第2部では、D新滑走路の計画と工事さらには運用についてお話をいただきました。多摩川河口域の流水の確保による洪水の氾濫防止並びに汽水域の自然環境維持に向けて棧橋工法と埋め立て構造を組み合わせた構造に決定したこと。工事は空港運

用をしながらの困難と技術的の粋を集めて竣工になったとお話されました。竣工により空港の面積は大田区の約23%を占めるとのお話には会場は改めて空港の広さを再認識していました。

専門的な事柄をわかりやすくお話していただいた講座の終了に進行係からの質問への回答で、沖合展開事業で印象に残っていることは地盤改良での奮闘であり、現在の運用での苦労は安全運航に向けて目にするのではない日常の点検管理と話されました。受講者も空港利用時にはこの言葉が浮かぶことと思います。

講座と同時に、羽田地域力推進センター1階ロビーで空港事務所の協力でパネル展示が行われ羽田国際空港の歴史と今後の展望に思いを寄せるひと時となりました。

地域を語る会はこれからも身近で興味深い話題を取り上げてまいります。今後の展開に期待ください。

(羽田旭町町会長 櫻井 寛)



おしるこのような地盤

羽田地区町会連合会の
公式ラインができました！

左図のQRコードを読み込んで羽田地区の最新情報をゲットしましょう！



@hanedarenngou

LINEの友だち追加からD検索するかQRコードをスキャンしてください。

☆編集後記☆

コロナ禍が明け、はばたきの集まりがあった時、従来のメンバーが代わっていて長く在籍した私に副編集長が巡ってきて新編集長に協力したい思いで引き受けました。今までは行事もなく取材することが無かったですが、小さな事でもこれは記事になるか写真撮っています。一新したメンバーで今まで以上のはばたきを目指します。

石井 悦子

夢と希望と……高速大師橋生まれ変わる

寄稿 安井 雅士

日頃より、首都高速道路事業にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。首都高速道路株式会社 更新・建設局 大師橋工事事務所の安井と申します。

5月27日(土)5時から6月10日(土)5時までの2週間、首都高速1号羽田線を通行止めさせていただき、古い橋と新しい橋を多摩川河川上で入れ替えを行う一括横取り架設を完了し、供用することが出来ました。近隣の皆さまには、着工から約5年半もの間架け替え工事にご理解・ご協力をいただきあらためて感謝申し上げます。首都高速大師橋は、昭和43年11月に開通してから50年以上が経過していました。自動車交通の増加による過酷な使用状況下で、多摩川に架かる鋼桁の延長約300mの区間において、多数の疲労亀裂が発生して



開通当時の大師橋の様子

ていました。日々、点検と補修を行ってきたところですが、構造物の長期的な安全性を確保するため、疲労亀裂が発生しにくい構造の橋梁に架け替えました。なお、今回更新区間以外はコンクリート製の橋梁のため、現時点で更新事業の必要はありません。



古い橋梁のスライド後の様子

令和4年には、有明、磯子の護岸で組立てをした橋梁を、大型台船で水上運搬し、多摩川の潮位変化等を利用して、4月に中央の桁(約130m)を、5月に川崎市側の桁(約80m)を架設しました。その後、大田区側の桁(約70m)を河川内で桁上クレーンにて分割架設を行い、10月には下流側に新設橋梁全体の骨組完了に至ることが出来ました。河川上では、壁高欄、照明柱、標識柱舗装など、事前に可能な範囲の道路設備を設置し、一括横取り架設を迎えました。

2週間の通行止め期間は、まず、橋桁をスライドするための隙間を確保するため、既設橋梁の両端部の一部を撤去し、橋桁を支えている支承などを分離する準備作業を行いました。そして、5月29日の早朝に

新しい橋梁を供用している様子



本事業は、引き続き、既設橋梁の解体、搬出のほか、ペント桁の撤去、恒久足場の設置等の工事を進める予定です。

首都高速道路(株)は、今後も『首都高リニューアルプロジェクト』を進めるなど、お客様へ安心・安全な首都高速道路を提供し、首都圏のひと・まち・くらしを結び、豊かで快適な社会の創造に貢献してまいりますので、引き続き、本事業へのご協力・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(首都高速道路株式会社 安井 雅士)

□ふれあいとうるおいのあるまち
地域情報紙Vol31.秋号

No.114

はばたき

□発行 地域力推進羽田地区委員会

□編集 はばたき20編集委員会